

パラグアイ内政・外交報告（6月分）
政治情勢

2018年7月作成

1 内政

（1）政権移行チームの発足

4日、大統領令第9020号の発出により8月15日に発足するアブド・ベニテス政権に対して裁判所及び行政機関に関する業務移行を行う政権移行チームが発足した。これにより同チームの以下の調整員が任命された。

- 移行チーム長：フアン・カルロス・ロペス・モレイラ（大統領府官房長官）
- 次期政権事務局：ベニグノ・ロペス・ベニテス（次期財務相）
フアン・エルネスト・ビジャマジョール（次期内務相）

（2）カルテス大統領の辞表撤回

26日、カルテス大統領は、ルゴ下院議長宛の書簡を通じて、5月28日に提出し議会で審議が行われてこなかった大統領としての辞表を撤回した。

カルテス大統領は自身のツイッターにおいて「私は、大統領としての辞表撤回に関して、一部の国会議員が4月22日（カルテス大統領が上院議員に当選した総選挙の投票日）に示された民意が尊重されることを望んでいないことを大変遺憾に思う。コロラド党が統一して次期議会任期に臨むことができなくなったことは残念である」と述べた。

2 外交

（1）ロイサガ外相の米州機構総会への出席

4日及び5日、ロイサガ外務大臣が米国ワシントンで行われた第48回米州機構（OAS）総会に出席し議長を務めた。

同外相は、「本総会は各国の考えを忌憚なく表明できた良い機会であった。総会は回を追うごとに強固になっており、米州各国が参加する主要な政治的会議となっている。」と述べるとともに、アルマグロ事務総長、メンデス事務総長代理及び米州機構事務方が、同機構の発展に果たす役割を評価した。

アルマグロ事務総長は、今期、同外相が議長を二度務めたことを強調しつつ、議長としての功績を称えた。

（2）次期大統領のブラジル及びアルゼンチン訪問

ア 11日、ブラジルを訪問したアブド・ベニテス次期大統領は、テメル伯大統領と会談した。同次期大統領は両国を繋ぐ4つの橋梁建設計画を前進させる旨提案し、両者は、カルメロ・ペラルタ～プエルト・モウルティーニョ間に1本、パラナ川に2本及びアパ川に1本の橋梁建設プロジェクトについて意見を交わした。同次期大統領は、現在、両国間をつなぐ橋梁はエステ～フォズ・ド・イグアス間の1本のみであり、これは両国の商業及びビジネス機会を行っていくうえで受け入れがたいことである旨述べ、「同プロジェクトは両国の競争力を高めるために重要なものになるであろう」と述べた。また、同次期大統領は、ブラジル政府側の政治的意志を感じた旨付言した。

両者は、組織犯罪、麻薬取引及び資金洗浄を撲滅する二国間の共同行動を強化する必要性につき意見を交わした。テメル大統領は、8月15日のパラグアイ大統領就任式に出

席する旨アブド・ベニテス次期大統領に伝達した。テメル大統領は最初に同式典に出席を表明した首脳となる。

イ 12日、アルゼンチンを訪問したアブド・ベニテス次期大統領は、マクリ亜大統領と大統領官邸において会談し、治安問題、国境地帯の越境犯罪、並びにヤシレタダム発電電力量を10%増加させるアニャ・クア護岸水路建設について意見を交わした。また、同次期大統領は、マクリ大統領を大統領就任式へ招待した。会談は非公開で行われた。

(3) 次期大統領とプーチン露大統領との会談

14日、アブド・ベニテス次期大統領は、ベラスケス次期副大統領及びカスティグリオーニ次期外務大臣とともにロシア・モスクワを訪問し、プーチン露大統領と会談した。会談では、二国間関係の発展及び展望につき意見を交わし、友好関係を強化することで一致した。パラグアイの(次期)大統領がロシアを訪問するのは、26年前に外交関係が樹立して以来初めてである。

(4) カスティグリオーニ・パラグアイ次期外相の訪日

17日から23日にかけて、カスティグリオーニ次期外相が訪日した。18日、同次期外相は河野外務大臣を表敬した。同外相が発表した文書によれば、両者は戦略的な二国間関係を再確認し、2019年が国交100周年である旨言及した。また、アブド・ベニテス次期大統領が日パラグアイ間の貿易・投資・協力をより一層促進することに関心を有している点について話し合われた。

(5) 駐日パラグアイ大使からロイサガ外相への任務報告

28日、ロイサガ外相はフロレンティン大使と会談し、同大使から就任後6ヶ月間の任務につき説明を受けた。

同大使は、6ヶ月間で、外務大臣をはじめ、経済産業大臣、経済団体のメンバー等、全ての要人と接触した旨述べ、「トヨタ前大使が残したたいへん良い環境があることが分かった。同前大使が残してくれた人脈のもと仕事を始めることができた」と述べた。

同大使は、「政治レベルで日本との関係性には可能性があることがわかった。両国には、二国間及び多国間レベルにおいて素晴らしい外交関係があり、これを促進していくべきであるとロイサガ外相に対して伝えた」と述べた。

また、同大使は、過去5年間で日本からの投資は2倍に増加するなど、貿易・経済関係においても高い可能性があるが、投資をより増加させるため、日本企業にパラグアイを知ってもらえるよう努める必要がある旨述べるとともに、「(パラグアイの)商業にとっても有益である。日本は世界第3位の経済力を持ち、パラグアイも日本において成長できる可能性がある。パラグアイが輸出している大豆及びゴマといった産品は、日本において非常に需要がある。また、日本市場への牛肉輸出をはじめとした他の品目を視野にいれる潜在性もある。その意味では、よい知らせがあり、ウルグアイは、パラグアイと同じ口蹄疫ワクチン接種洗浄国であるが、ワクチン接種洗浄国として初めて、日本への牛肉製品の輸出を達成した」と付言した。

3 要人往来

(1) 来訪

- ジュングマン伯治安相、シルバ・イ・ルーナ伯国防大臣、ビリエル亜治安省麻薬対

策担当官（パラグアイ-伯-亜治安関連閣僚会議）

- テメル伯大統領，バスケス ウルグアイ大統領，ミチェッティ亜副大統領，レフィネッティ伯財務大臣，アストリ ウルグアイ経済・財務大臣，サンチェス ボリビア中央銀行総裁他（第52回メルコスール首脳会議）

（2）往訪

- ロイサガ外相他，米国・ワシントンDC（第48回OAS総会）
- サロモン上院議員，ジュシオ上院議員，ロシア（公式訪問）
- アブド・ベニテス次期大統領，伯・ブラジリア（大統領就任前の訪問）
- アブド・ベニテス次期大統領，亜・ブエノスアイレス（大統領就任前の訪問）
- アブド・ベニテス次期大統領，露・モスクワ（大統領就任前の訪問・FIFAワールドカップ開会式出席）
- レイテ商工相，台湾・台北
- マルティネス内相，イスラエル・エルサレム（IHSF（International Homeland Security Forum）出席）
- モリニゴ厚生相，コスタリカ・サンホセ（パンアメリカン保健機構及び世界保健機構主催フォーラム出席）
- アギレラ教育相，亜・コルドバ（ラテンアメリカ・カリブ地域における高等教育に関する会合出席）
- カスティグリオー二次期外相夫妻，日本・東京，大阪，兵庫，広島
- ヒメネス・ガオナ公共通信相，チリ・サンティアゴ（ラテンアメリカにおけるインフラ整備フォーラム出席）
- アギレラ教育相，ドミニカ共和国・サントドミンゴ（アンドレス・ベリヨ協定閣僚会議出席）